

町民向けアンケート調査 結果のまとめ

1 調査の目的

第2次精華町地域福祉計画策定にあたって、地域福祉に関する住民の意識や活動実態等を把握することにより、計画を策定するための基礎資料として活用することを目的としています。

2 調査方法及び回収状況

(1) 調査対象

平成25年9月現在の住民基本台帳に記載されている方を対象者として実施しました。

(2) 調査期間 平成25年10月29日(火)～11月12日(火)

(3) 調査方法 郵送配布、郵送回収方式

(4) 調査対象数と回収状況

調査対象数 (A)	2,000
回収数 (B)	1,023
回収率 (B) ÷ (A)	51.2

(5) 調査データの表示について

- ・構成比の%は小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計は100%にならない場合があります。
- ・複数回答の構成比は回答数を回答者数で割っているため、内訳の合計は100%を超えることとなります。
- ・グラフ上の「不明」には「無回答」の件数を含んでいます。

3 調査結果

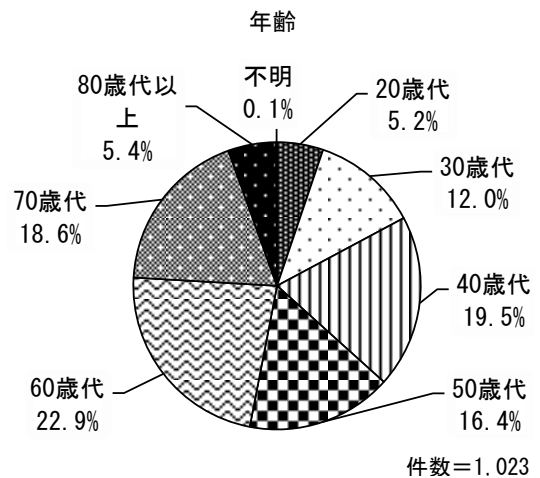
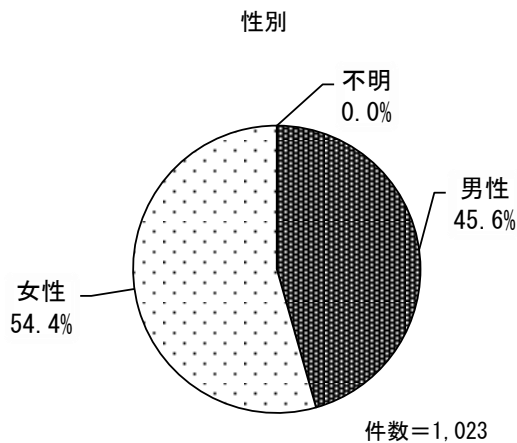
(1) 回答者の属性について

問1 あなたの性別についてお答えください。

問2 あなたの年齢についてお答えください。

回答者の6割弱が60歳以上である

- ・回答者の性別は「女性」が54.4%となっており、「男性」より8.8ポイント高くなっています。
- ・年齢別では「60歳代」の割合が22.9%で最も高く、次いで「40歳代」が19.5%、「70歳代」が18.6%となっています。また60歳以上が占める割合が6割弱となっています。

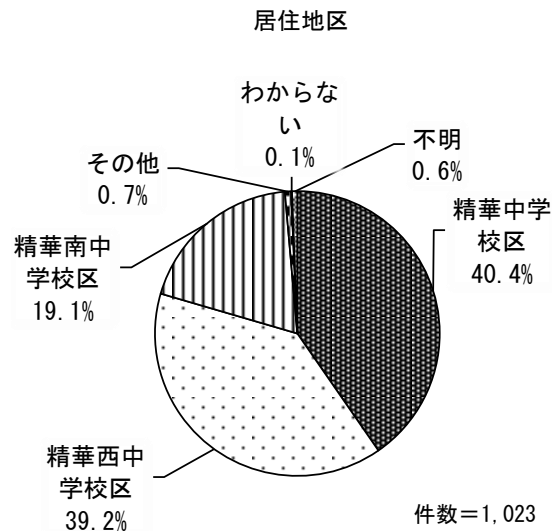
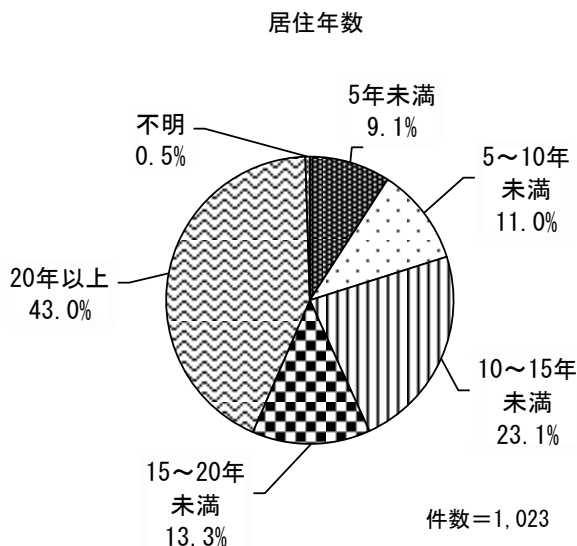


問3 あなたの精華町における居住年数についてお答えください。

問4 あなたのお住まいの地区についてお答えください。

居住年数が20年未満の世帯が6割弱を占めている

- ・回答者の居住年数は「20年以上」の割合が43.0%で最も高く、次いで「10～15年未満」が23.1%となっています。
- ・回答者の居住地区は、「精華中学校区」の割合が40.4%で最も高く、次いで「精華西中学校区」が39.2%、「精華南中学校区」が19.1%となっています。



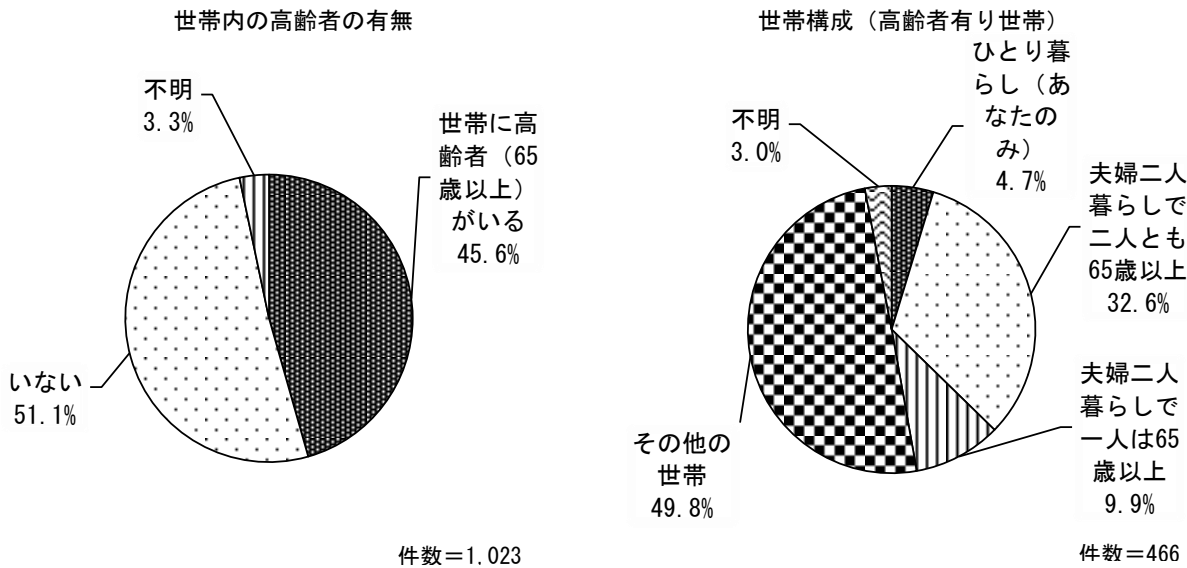
問 5 あなたと一緒に暮らす家族の方についてお答えください。

5-1 あなたを含めて世帯に高齢者(65歳以上)の方がおられますか。

5-2 あなたと一緒に暮らす世帯構成についてお答えください。

約半数の世帯に65歳以上の高齢者がいる

- ・世帯内の高齢者の有無は「いない」と回答した割合が51.1%となっており、「世帯に高齢者がいる」と回答した割合より5.5ポイント高くなっています。
- ・高齢者有り世帯の世帯構成をみると「その他の世帯」の割合が49.8%で最も高く、次いで「夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上」が32.6%となっています。



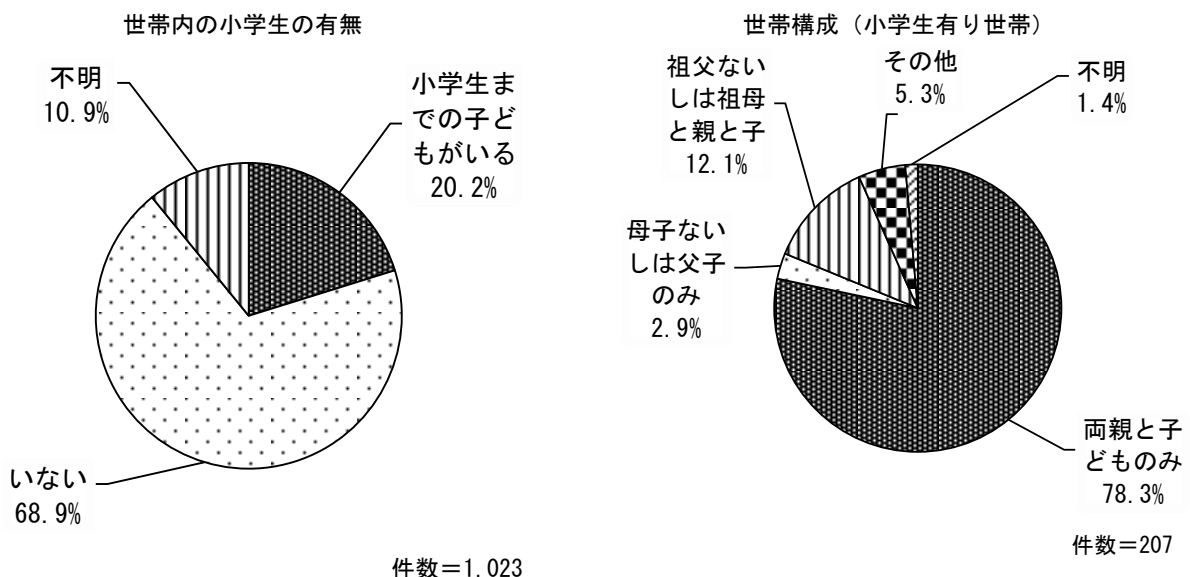
問 6 あなたと一緒に暮らす子どもについてお答えください。

6-1 あなたの世帯に小学生までの子どもがおられますか。

6-2 世帯構成についてお答えください。

回答者の6割弱が60歳以上である

- ・世帯内の小学生の有無は「いない」と回答した割合が68.9%を占めています。
- ・小学生有り世帯の世帯構成をみると「両親と子どものみ」の割合が78.3%で最も高く、次いで「祖父ないしは祖母と親と子」が12.1%となっています。

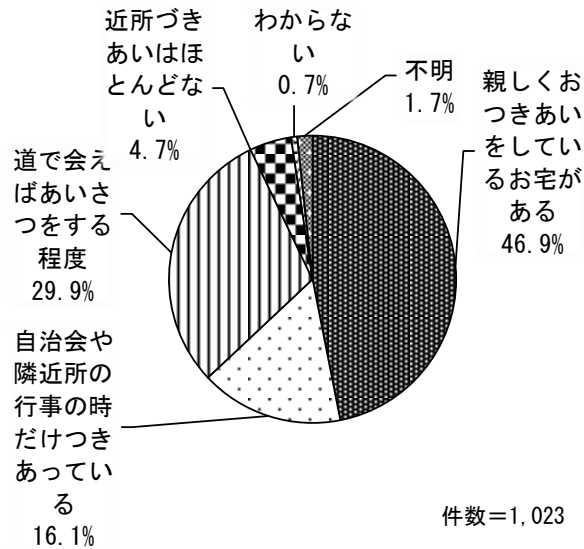


(2) 近所づきあいについて

問7 あなたは隣近所とどのようなおつきあいをされていますか。

居住年数が短い程、近所づきあいが希薄である

- ・回答者の近所づきあいは「親しくおつきあいしているお宅がある」との回答が最も高く 46.9% を占めていますが、一方で「道で会えばあいさつをする程度」が 29.9% となっています。

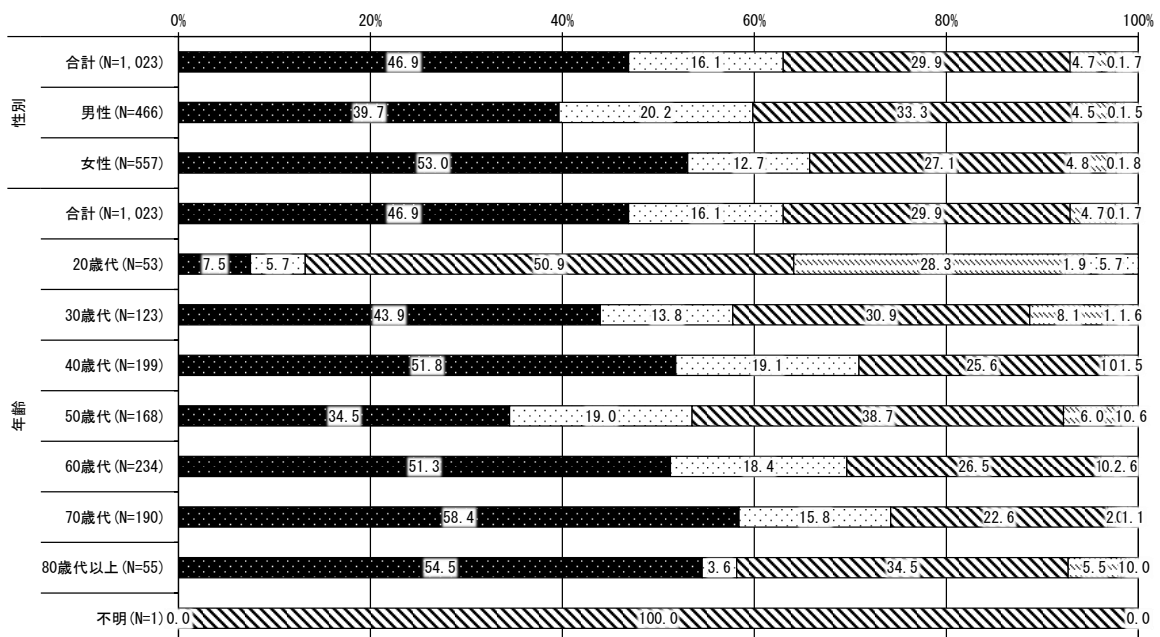


【近所づきあいの状況×回答者の属性】

- ・男女別にみると、男性よりも女性の方が「親しくつきあいのあるお宅がある」と回答した割合が 13.3 ポイント高くなっています。
- ・年齢別にみると、20 歳代の回答者において「親しくつきあいのあるお宅がある」と回答した割合が高く 1 割を下回っています。

近所づきあいの状況×性別、年齢

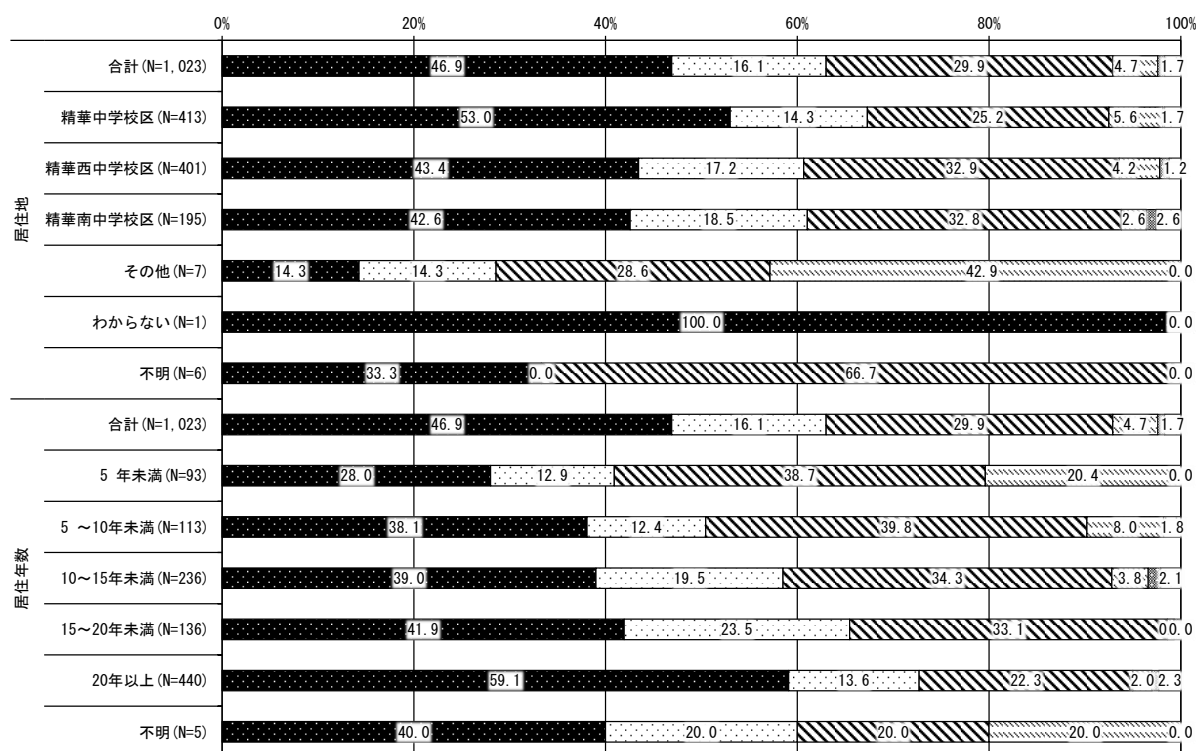
■親しくおつきあいしているお宅がある □自治会や隣近所の行事の時だけつきあっている ▨道で会えばあいさつをする程度 ▩近所づきあいはほとんどない ○わからない ◻不明



- ・居住年数別にみると、居住年数が長い程、近所づきあいが活発に行わせている傾向にあります。

近所づきあいの状況×居住地、居住年数

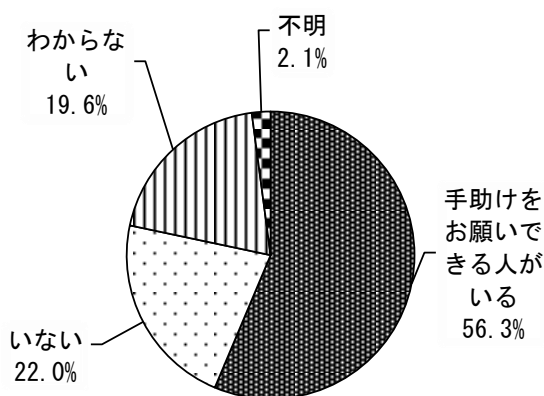
■親しくおつきあいをしているお宅がある □自治会や隣近所の行事の時だけつきあっている ▨道で会えばあいさつをする程度 ▩近所づきあいはほとんどない ▪わからない □不明



問8 あなたは困った時に、手助けをお願いできる近所の人がありますか。

回答者の8割弱が困った時に手助けをお願いできる人がいると回答している

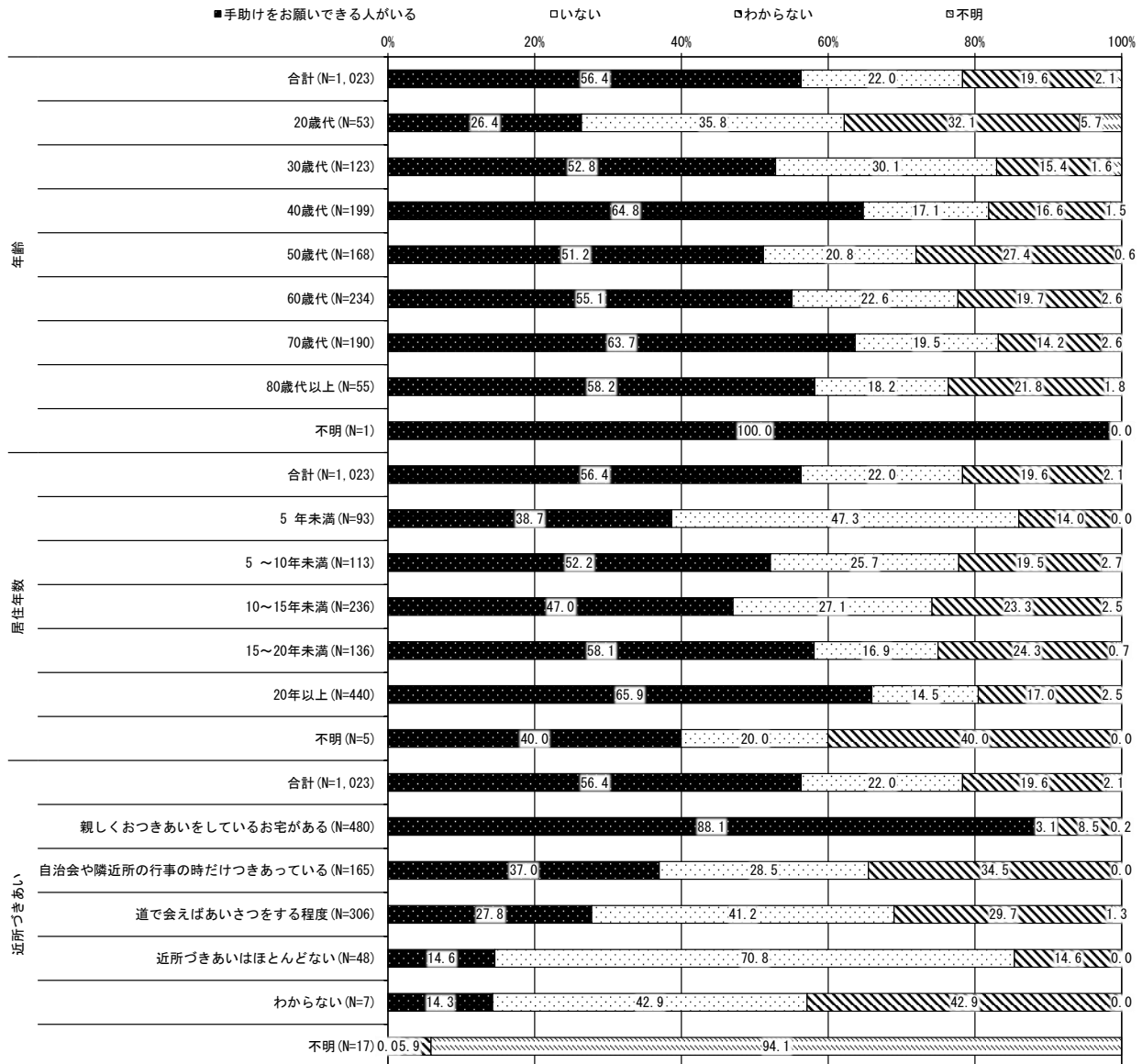
- ・困った時に手助けをお願いできる人の有無について「手助けをお願いできる人がいる」と回答した割合が56.3%で最も高く、次いで「いない」が22.0%となっています。



件数=1,023

【困った時に手助けをお願いできる人の有無×回答者の属性】

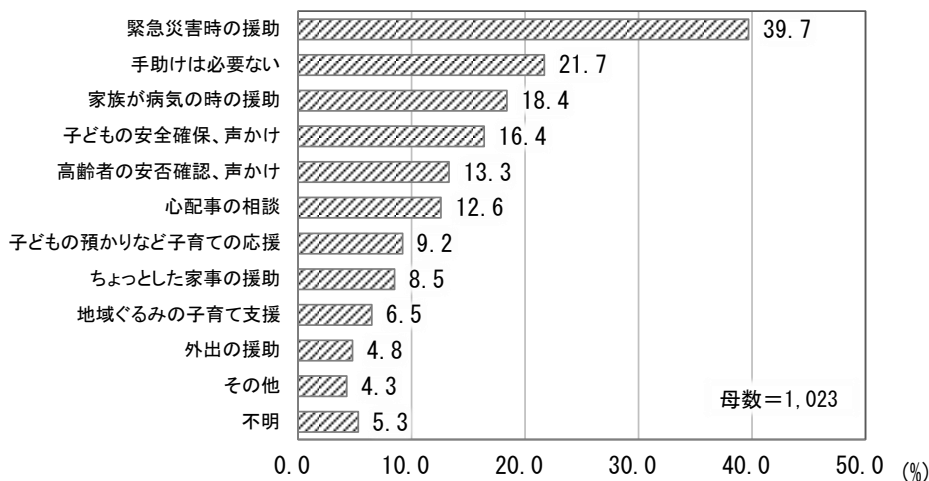
- ・年齢別にみると、20歳代は「手助けをお願いできる人がいる」割合が3割弱となっているが、30歳代以上では5割以上となっています。
- ・居住年数別にみると、居住年数が長いほど「手助けをお願いできる人がいる」割合が高くなる傾向にあります。
- ・近所づきあい別にみると、親しくおつきあいをしているお宅がある回答者において「手助けをお願いできる人がいる」と回答した割合が9割弱となっています。



問 9 あなたが手助けをお願いしたいことについてお答えください。

緊急災害時の援助に対する需要が高い

・手助けをお願いしたいことについて「緊急災害時の援助」の割合が39.7%で最も高く、次いで「手助けは必要ない」が21.7%、「家族が病気の時の援助」が18.4%となっています。



【年齢別 手助けをお願いしたいこと】

・年齢別にみると、30歳代以外の年齢層では「緊急災害時の援助」と回答した割合が最も高くなっています。

・一方、子育て世代である30歳代では「子どもの安全確保、声かけ」と回答した割合が最も高くなっています。

	全体 (N=1,023)	年齢							
		20歳代 (N=53)	30歳代 (N=123)	40歳代 (N=199)	50歳代 (N=168)	60歳代 (N=234)	70歳代 (N=190)	80歳代以上 (N=55)	不明 (N=1)
緊急災害時の援助	39.7	41.5	28.5	42.2	45.2	38.0	40.5	40.0	100.0
家族が病気の時の援助	18.4	11.3	18.7	14.6	17.3	22.6	21.1	14.5	0.0
子どもの安全確保、声かけ	16.4	5.7	44.7	36.7	11.9	4.3	3.7	0.0	0.0
高齢者の安否確認、声かけ	13.3	9.4	4.1	6.5	11.9	17.1	21.6	21.8	0.0
心配事の相談	12.6	11.3	12.2	22.6	14.3	6.8	9.5	9.1	0.0
子どもの預かりなど子育ての応援	9.2	1.9	33.3	21.1	4.2	0.9	0.5	0.0	0.0
ちょっとした家事の援助	8.5	7.5	6.5	5.5	6.5	11.1	9.5	16.4	0.0
地域ぐるみの子育て支援	6.5	3.8	17.9	11.1	3.6	3.8	3.2	0.0	0.0
外出の援助	4.8	0.0	1.6	2.5	5.4	6.4	6.8	7.3	100.0
その他	4.3	0.0	1.6	4.0	5.4	5.1	5.8	3.6	0.0
手助けは必要ない	21.7	34.0	12.2	10.6	22.6	29.1	26.8	20.0	0.0
不明	5.3	7.5	3.3	3.5	3.6	5.6	7.4	10.9	0.0

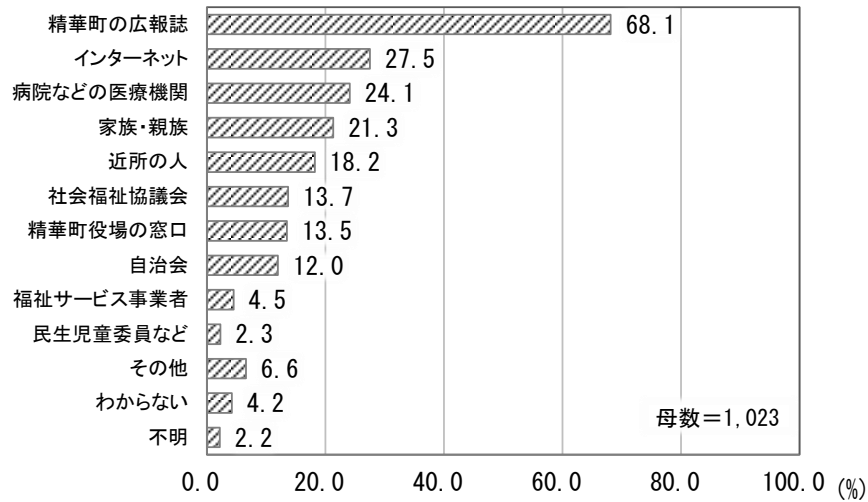
※高い順に①網掛け(濃)白字、②網掛け(濃)黒字、③網掛け(淡)黒字

(3) 困ったときの相談や情報の収集について

問 10 あなたは、健康や福祉に関する情報をどこから得ていますか。

約 7 割の回答者が精華町の広報誌を健康や福祉に関する情報の入手先にしている

・健康や福祉に関する情報の入手先は「精華町の広報誌」の割合が 68.1%で最も高く、次いで「インターネット」が 27.5%、「病院などの医療機関」が 24.1%となっています。

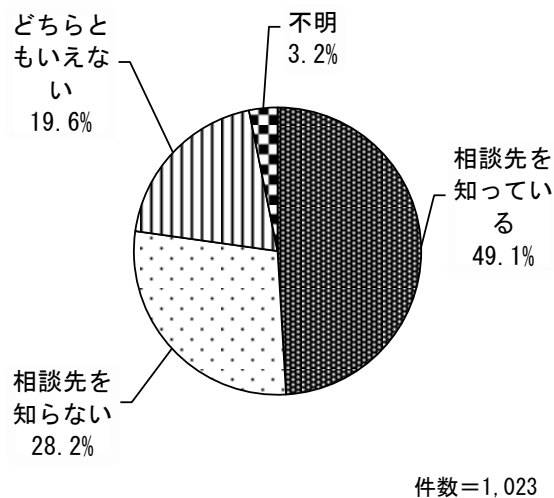


問 11 あなたは、生活や介護などで困った時に、どこに相談すればいいか知っていますか。

回答者の 3 割が生活や介護などで困った時の相談先を知らない

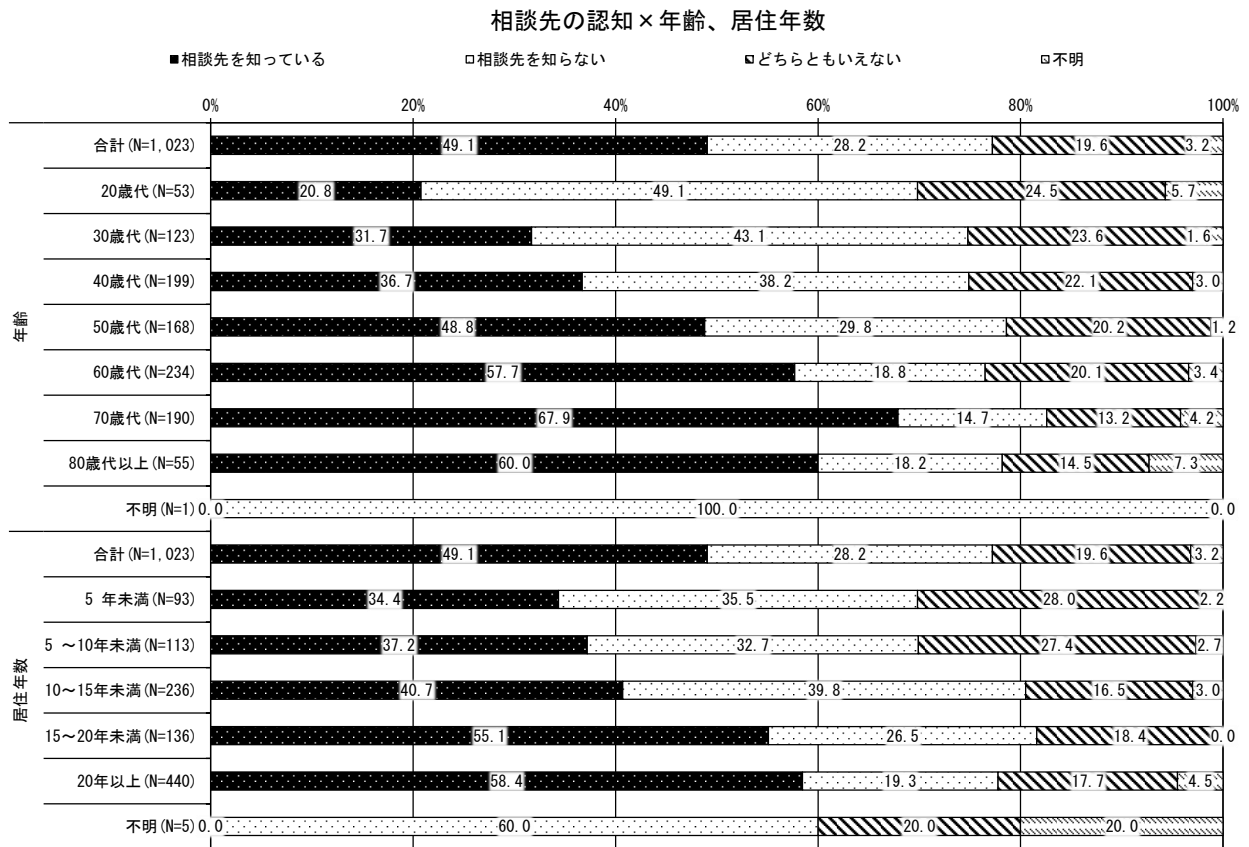
特に居住年数が短い人や若年層において相談先の認知度が低い傾向にある

・生活や介護などで困ったときの相談先について「相談先を知っている」と回答した割合が 49.1%で最も高い一方で、「相談先を知らない」回答者が 28.2%となっています。



【相談先の認知度×年齢、居住年数】

- ・年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、相談先についての認知度が高まる傾向にあります。
- ・居住年数別にみると、居住年数が長いほど、相談先についての認知度が高まる傾向にあります。

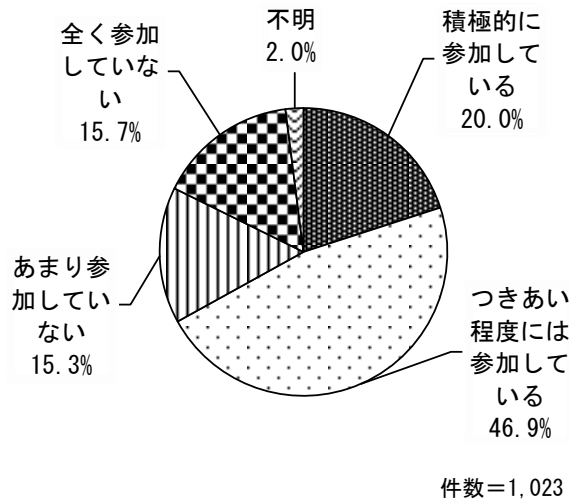


(4) 地域福祉に係る活動への参加について

問 12 あなたは自治会をはじめとする地域団体の活動にどの程度参加されていますか。

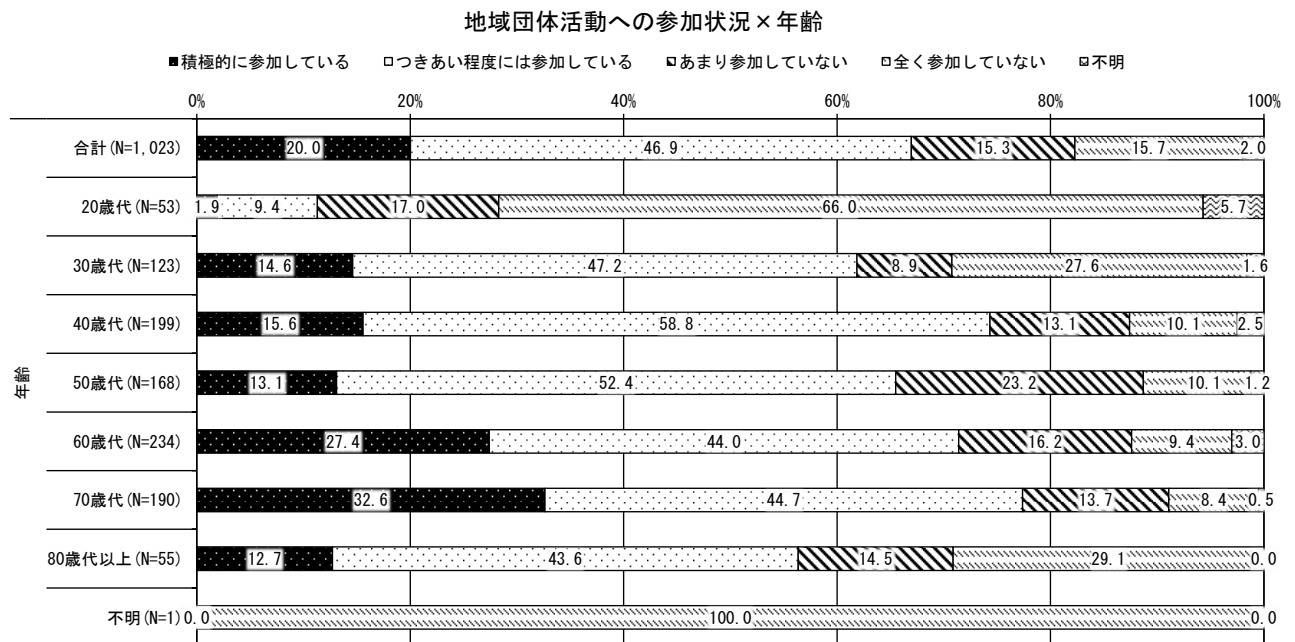
60～70 歳代で地域団体活動への積極的な参加が高まる

- ・地域団体の活動への参加について「つきあい程度には参加している」と回答した割合が 46.9% で最も高く、次いで「全く参加していない」が 15.7%、「あまり参加していない」が 15.3% となっています。



【地域団体活動への参加状況×年齢】

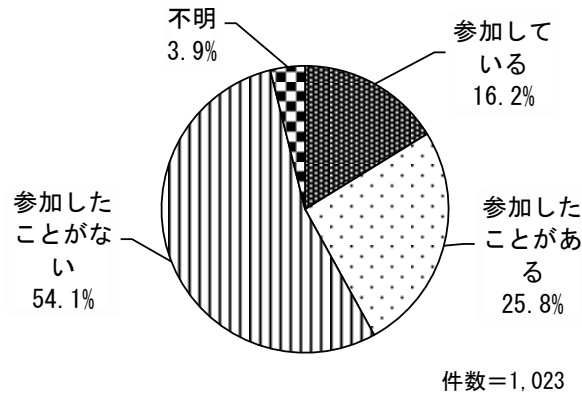
- ・年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、地域団体活動への参加状況が向上する傾向にあります。



問 13 あなたはボランティアなどの活動に参加されていますか。

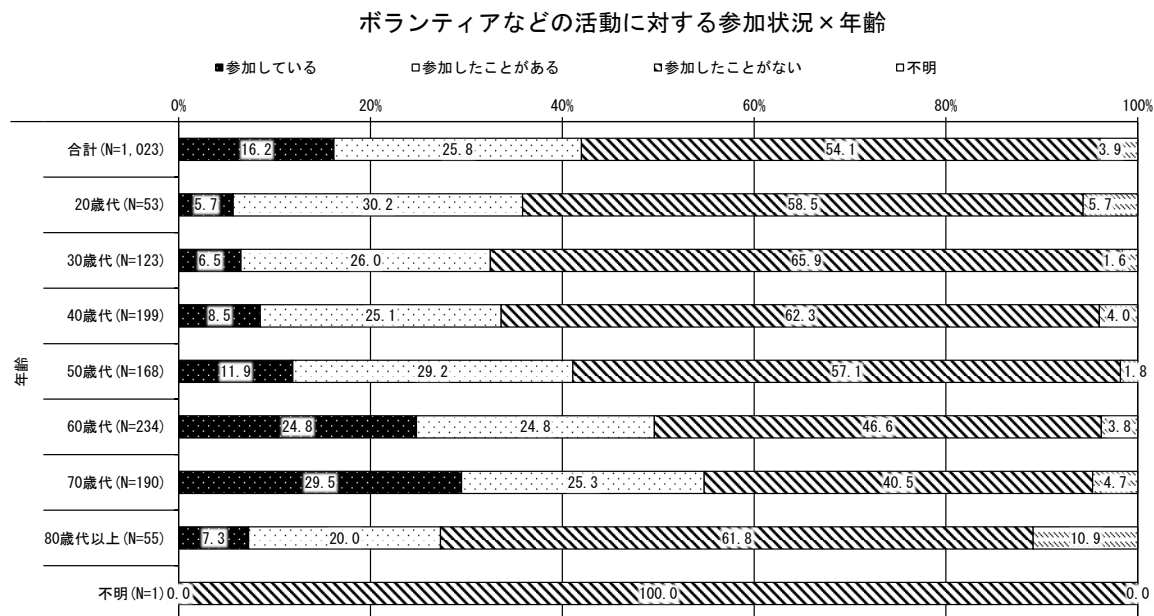
60～70 歳代でボランティア活動などへの参加が高まる

- ・ ボランティア活動への参加状況は「参加したことがない」の割合が 54.1%で最も高く、次いで「参加したことがある」が 25.8%、「参加している」が 16.2%となっています。



【ボランティアなどの活動に対する参加状況×年齢】

- ・ 年齢別にみると、年齢層が高くなるほど、ボランティア活動などへの参加状況が向上する傾向にあります。

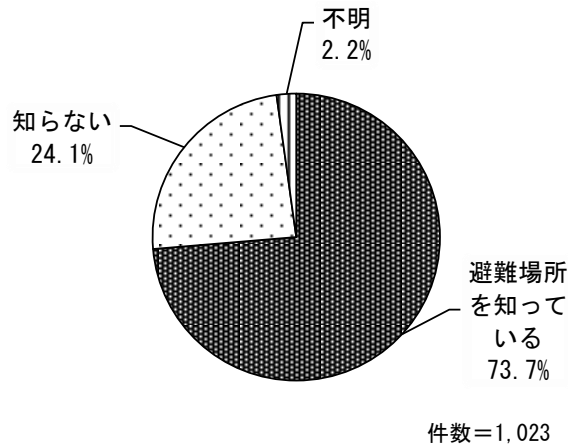


(5) 緊急災害時について

問 14 あなたは緊急災害時の避難場所を知っていますか。

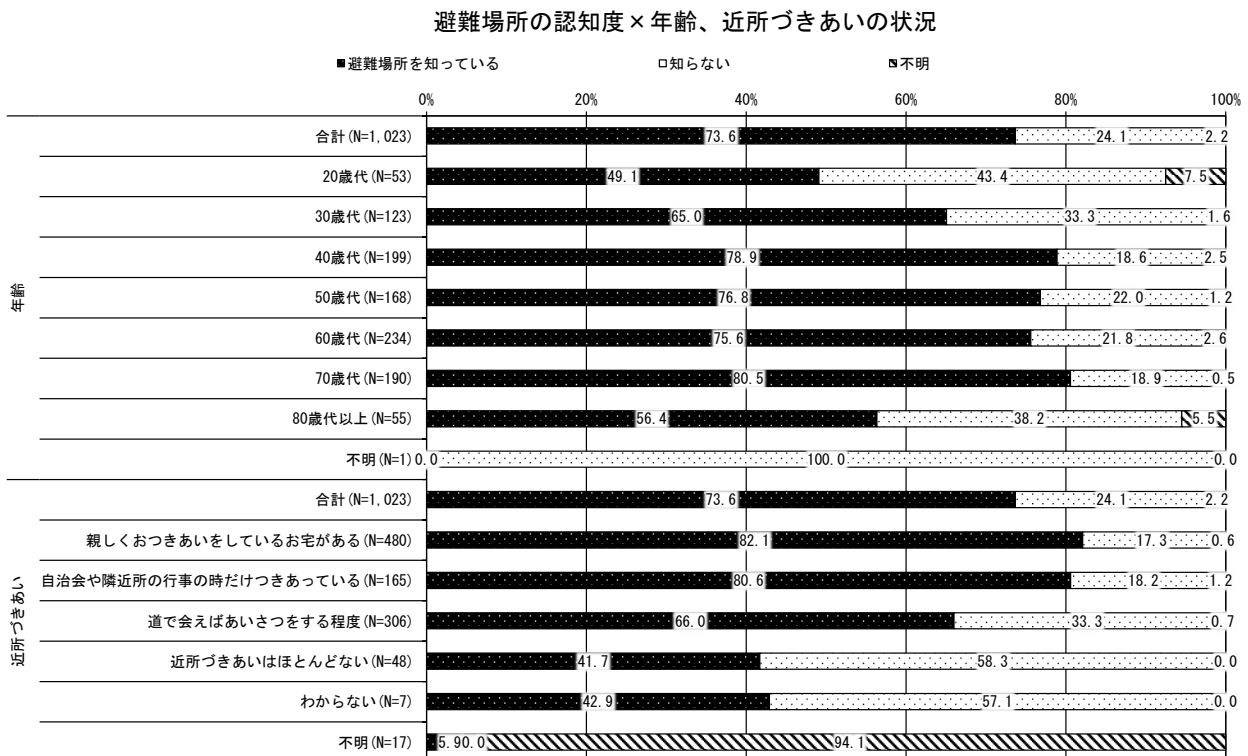
避難場所の認知度は7割以上となっているが、若年層や近所づきあいが希薄な人は認知度が低くなる傾向にある

- ・緊急災害時の避難場所について「避難場所を知っている」の割合が73.7%となっており、「知らない」の24.1%を大きく上回っています。



【避難場所の認知度×年齢、近所づきあいの状況】

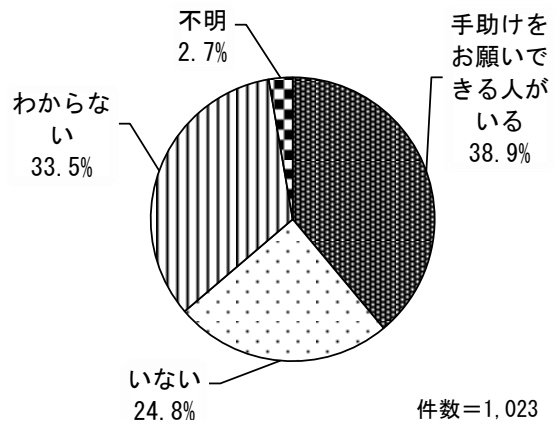
- ・年齢別にみると、20歳代では避難場所の認知度が5割以下となっていますが、30歳代では7割弱、40歳代以上では8割弱と認知度が高まっています。
- ・近所づきあいの状況別にみると、近所づきあいが希薄であるほど避難場所の認知度が低くなる傾向にあります。



問 15 あなたは緊急災害時に、避難の手助けをお願いできる近所の人がありますか。

避難の手助けをお願いできる近所の人がある割合は 4 割にとどまっている

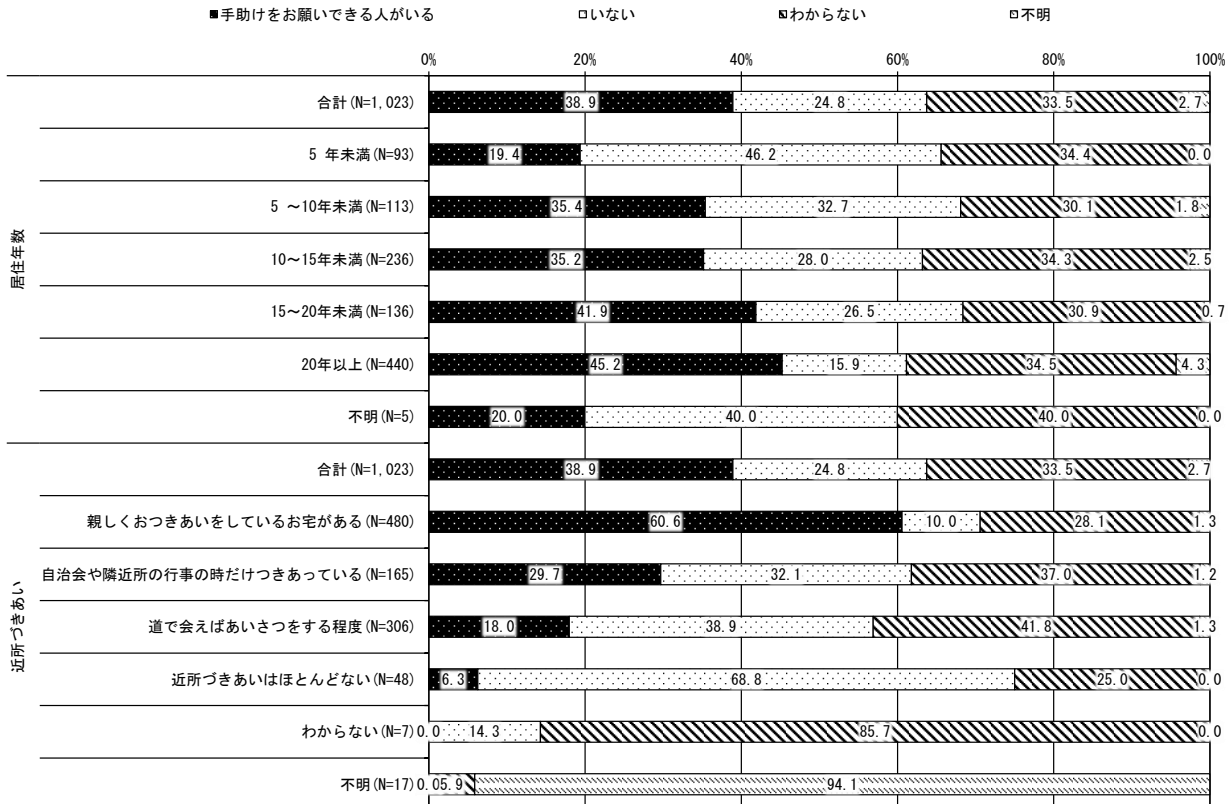
- ・緊急災害時に避難の手助けをお願いできる近所の人の有無について「手助けをお願いできる人がある」の割合が 38.9%で最も高く、次いで「わからない」が 33.5%、「いない」が 24.8%となっています。



【緊急災害時に避難の手助けをお願いできる近所の人の有無×居住年数、近所づきあいの状況】

- ・居住年数別にみると、居住年数が長いほど緊急災害時に避難の手助けをお願いできる近所の人がある割合が高まります。
- ・近所づきあいの状況別にみると、近所づきあいが希薄であるほど緊急災害時に避難の手助けをお願いできる近所の人がある割合が低くなる傾向にあります。

緊急災害時に避難の手助けをお願いできる近所の人の有無×居住年数、近所づきあいの状況

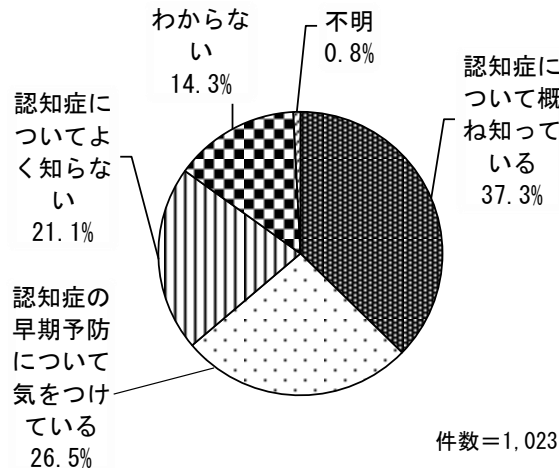


(6) 認知症対策や見守り・生活支援について

問 16 あなたは認知症の内容や早期予防についてご存じですか。

認知症の内容や早期予防についての認知度は6割強である

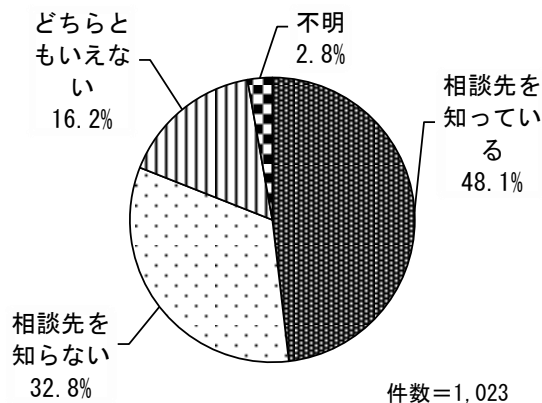
- ・認知症の内容や早期予防について「認知症について概ね知っている」の割合が37.3%で最も高く、次いで「認知症の早期予防について気をつけている」が26.5%、「認知症についてよく知らない」が21.1%となっています。



問 17 あなたは、認知症や介護などで困った時に、どこに相談すればいいか知っていますか。

認知症や介護などに困った時の相談先の認知度は高齢者になるほど高くなる傾向にある

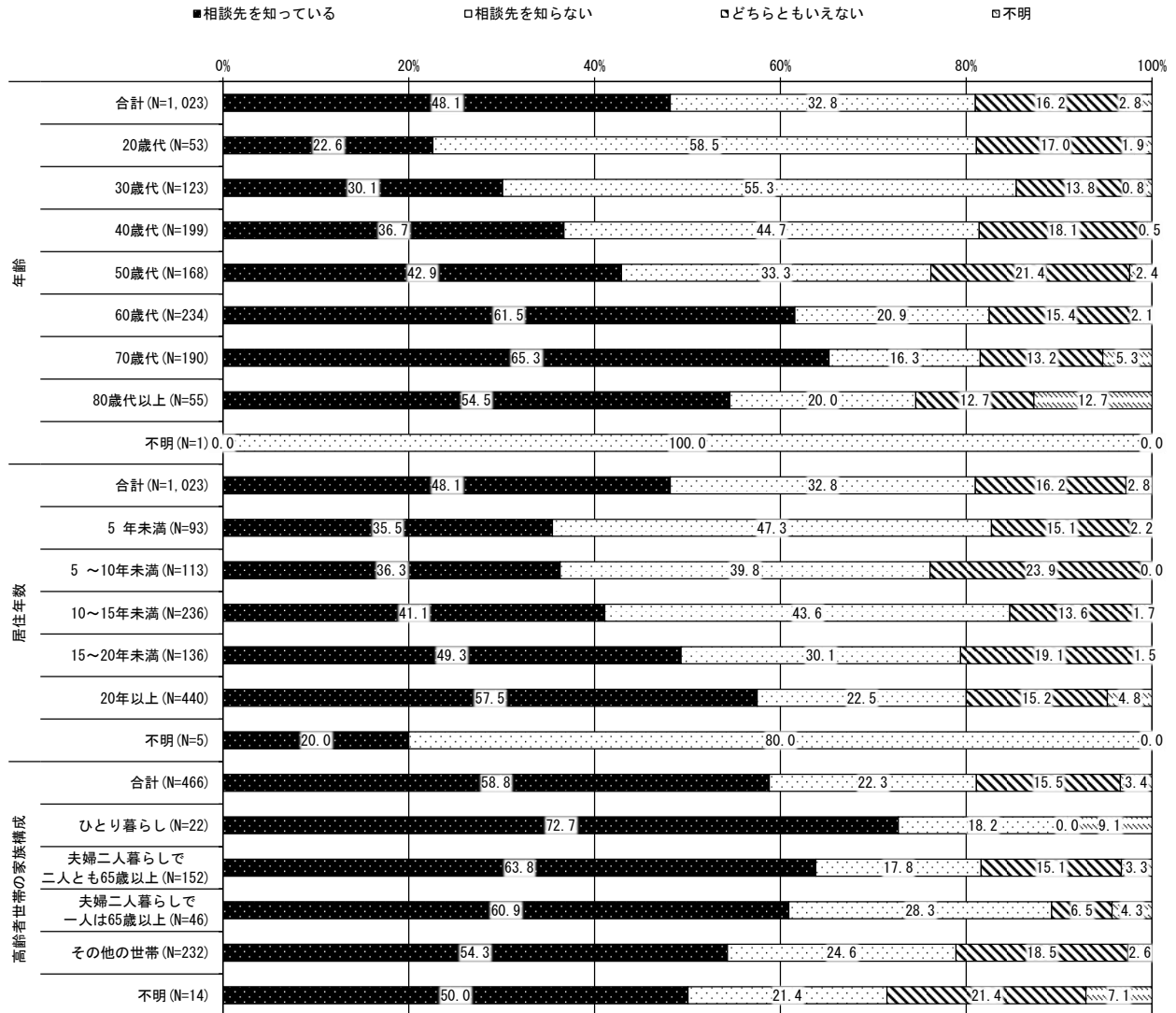
- ・認知症や介護などに困った時の相談先の認知度について「相談先を知っている」の割合が48.1%で最も高く、次いで「相談先を知らない」が32.8%、「どちらともいえない」が16.2%となっています。



【認知症や介護などに困った時の相談先の認知度×年齢、居住年数、高齢者世帯の家族構成】

- ・年齢別にみると、年齢層が高くなるほど認知症や介護などに困った時の相談先の認知度が高まる傾向にあります。
- ・居住年数別にみると、居住年数が長いほど認知症や介護などに困った時の相談先の認知度が高まる傾向にあります。
- ・高齢世帯の家族構成別にみると、ひとり暮らし世帯で相談先の認知度が高く7割以上となっています。

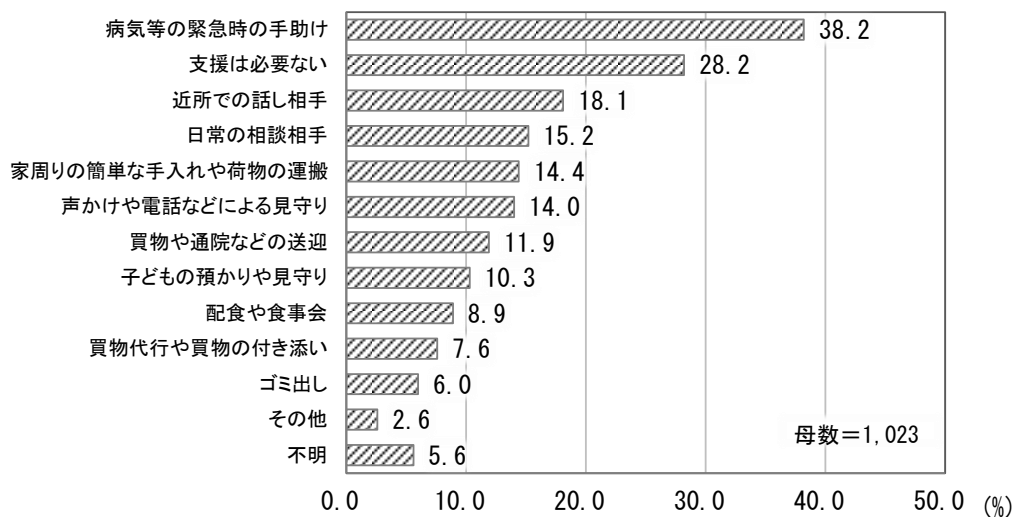
認知症や介護などに困った時の相談先の認知度×年齢、居住年数、高齢者世帯の家族構成



問 18 見守りや生活支援について、あなたのお住まいの地域の中で利用したいと思われるものはどれですか。

病気等の緊急時の手助けに対する支援への需要が高い

・見守りや生活支援のうち利用したいものは「病院等の緊急時の手助け」の割合が38.2%で最も高く、次いで「支援は必要ない」が28.2%、「近所での話し相手」が18.1%となっています。

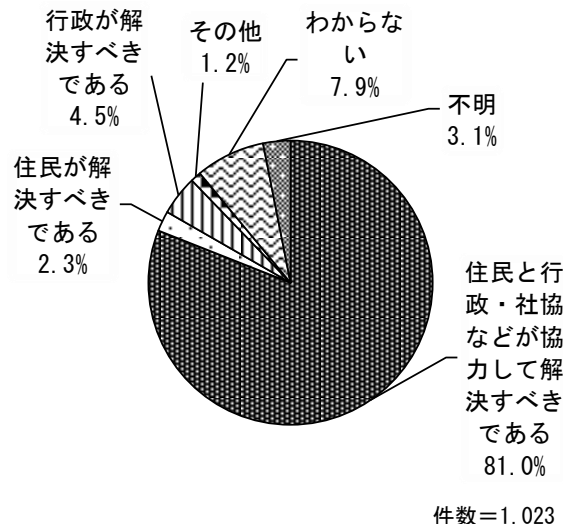


(7) 地域福祉の取り組みについて

問 19 地域の問題や課題の解決方法についてどのように考えていますか。

地域の問題や課題は住民と行政・社協などが協力して解決すべきと考える意識が強い

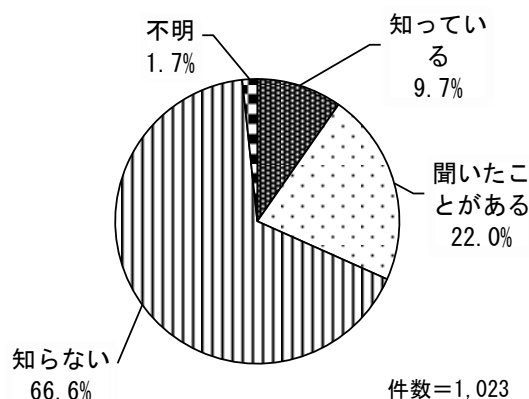
- ・地域の問題や課題の解決方法について「住民と行政・社協などが協力して解決すべきである」の割合が 81.0%で最も高く、次いで「わからない」が 7.9%、「行政が解決すべきである」が 4.5%となっています。



問 20 精華町地域福祉計画では「川西ふれあいネットワーク」「さわやかウエスト」「山田川きずなポート」といった住民組織が地域福祉の活動に取り組んでいます。あなたは、これらの活動について知っていますか。

住民組織による地域福祉活動の取り組みに対する認知度は低い

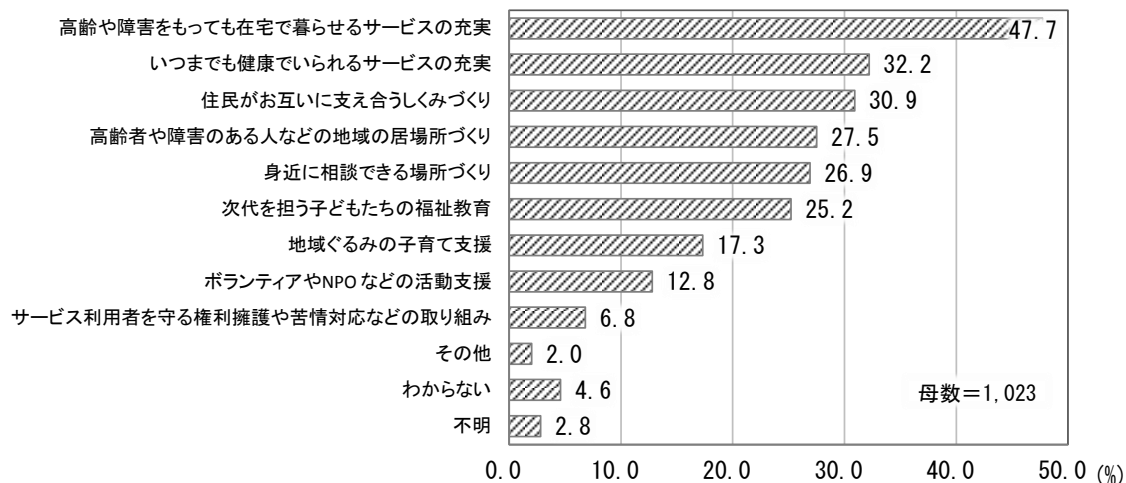
- ・住民組織による地域福祉活動の認知度について「知らない」と回答した割合が 66.6%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が 22.0%、「知っている」が 9.7%となっています。



問 21 今後、本町はどのような施策を優先して充実すべきだと思いますか。

高齢者等が在宅で暮らせるサービスや健康維持に向けたサービスの充実が求められている

・今後優先して充実すべき施策は「高齢や障害をもっても在宅で暮らせるサービスの充実」の割合が47.7%で最も高く、次いで「いつまでも健康でいられるサービスの充実」が32.2%、「住民がお互いに支え合うしくみづくり」が30.9%となっています。



【年齢別 優先して充実すべき施策】

・年齢別にみると、40歳以上では「高齢や障害をもっても在宅で暮らせるサービスの充実」と回答した割合が最も高くなっています。

・また、20歳代では「地域ぐるみの子育て支援」、30歳代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」の割合が最も高く、子育てに対する施策の充実が求められています。

	全体 (N=1,023)	年齢							
		20歳代 (N=53)	30歳代 (N=123)	40歳代 (N=199)	50歳代 (N=168)	60歳代 (N=234)	70歳代 (N=190)	80歳代以上 (N=55)	不明 (N=1)
高齢や障害をもっても在宅で暮らせるサービスの充実	47.7	24.5	34.1	43.7	47.6	57.7	56.3	41.8	100.0
いつまでも健康でいられるサービスの充実	32.2	32.1	21.1	31.2	36.3	35.5	31.1	38.2	0.0
住民がお互いに支え合うしくみづくり	30.9	20.8	18.7	29.1	29.8	35.9	40.0	25.5	0.0
高齢者や障害のある人などの地域の居場所づくり	27.5	24.5	17.1	28.1	31.0	35.0	24.2	18.2	100.0
身近に相談できる場所づくり	26.9	22.6	23.6	28.1	25.6	29.1	28.9	21.8	0.0
次代を担う子どもたちの福祉教育	25.2	32.1	51.2	29.1	20.8	19.2	17.9	9.1	100.0
地域ぐるみの子育て支援	17.3	34.0	39.0	26.1	14.3	12.0	2.6	3.6	0.0
ボランティアやNPOなどの活動支援	12.8	7.5	8.1	12.1	12.5	16.7	16.3	3.6	0.0
サービス利用者を守る権利擁護や苦情対応などの取り組み	6.8	7.5	6.5	7.5	7.1	8.1	4.2	7.3	0.0
その他	2.0	3.8	0.8	2.0	3.6	0.9	2.1	1.8	0.0
わからない	4.6	13.2	6.5	5.0	5.4	2.1	2.6	5.5	0.0
不明	2.8	1.9	1.6	1.0	1.8	1.3	5.8	12.7	0.0

※高い順に①網掛け(濃)白字、②網掛け(濃)黒字、③網掛け(淡)黒字